

総合資源エネルギー調査会 資源・燃料分科会
鉱業小委員会（第13回）
議事要旨

日 時：令和6年6月6日（木）14時00分～15時50分

場 所：経済産業省 別館2階第238各省共用会議室（WEB会議併用）

出席者：

○ 委員：

縄田小委員長、岩崎委員、清水委員、名井委員（WEB）、松八重委員（WEB）

○ オブザーバー：

大東オブザーバー、大垣オブザーバー（代理：近藤専務理事）、矢島オブザーバー

○ 事務局：

定光資源・燃料部長、有馬鉱物資源課長、野崎鉱物資源課長補佐

議 題1：今後の鉱物資源政策の方向性について

資料について事務局より説明後、委員、オブザーバーからの主な意見は以下のとおり。

（委員）

- ・ フロンティア地域の案件獲得に向けて、既にレアアース等で措置している JOGMEC による出資限度割合 75%も念頭に、銅についても JOGMEC によるこれまで以上のリスクテイクが必要。
- ・ 中長期的な資源確保が必要な中、JOGMEC が民間企業に先行して資源ジュニアに出資し、ノウハウ集約しながら、民間企業へ優良案件の引継ぎを目指していくことが有効。
- ・ 二次原料の確保も重要。ISO では持続可能な資源開発の在り方で二次原料も含めた資源開発が議論されており、ますます二次原料が資源として注目されている。
- ・ 鉱物資源分野の標準化にむけて日本の強みを反映させることができるような国際交渉力等を有する人材育成も必要。

（委員）

- ・ 今般の政策の方向性に違和感はない。DX・GX に向けて電化推進は必須で、それには銅を初めとしたベースメタルが重要。DX・GX の実現に向け、スピード感を持って対応すべき。
- ・ JOGMEC の機能強化だけでなく、業界団体やシンクタンクにいる人材も活用しながら日本の総合力を強化すべき。

（委員）

- ・ ルールメイクの人材育成は必要。特にライフサイクルアセスメントなどの環境負荷に精通した人材が必要。

（委員）

- ・ 今回のタイムリーで弾力的な政策の見直しを評価。

（委員）

- ・DX・GXの実現は端的に言えば生活環境すべてを電化することであり、そう簡単ではない。銅をはじめとする資源の供給から見ても非常に大変な話であることを国民に理解いただく必要がある。
- ・人材育成は技術人材のみならず、海外と交渉ができる人材が必要。

(オブザーバー)

- ・銅を政策強化の対象とすることは時宜にかなっている。
- ・日本企業が進出済みの主要産地でも鉱山・政治的リスクがあがっており、フロンティア地域をアフリカに限らず、広く政策拡充の対象とすべき。
- ・資源ジュニアへのJOGMECによる先行的な出資は早期実現を期待。
- ・これまでの資金的支援の対象はCAPEX主体だが、鉱山運営は長期での活動となることから、OPEX面での支援も必要。
- ・人材育成については、鉱山の産業重要性を位置づけることも重要。

(事務局)

- ・JOGMECのリスクテイク強化については、本日いただいたご意見も踏まえ、具体的な数字、予算措置も含めて、さらに検討を進めていきたい。

議 題2：レアメタル備蓄制度の見直しの必要性について

JOGMEC以外のオブザーバー退席後、JOGMECから、レアメタル備蓄制度に関する取組の現状と今後の課題について説明。委員との議論の後、終了。

■今後のまとめについては、委員長一任とする。

お問い合わせ先

資源エネルギー庁 資源・燃料部 鉱物資源課

電話：03-3501-1511（内線4701）

FAX：03-3580-8440